

## 民博連続講座

# 「“斜界学”のススメー常識をくつがえす技術」

日時	題	講師	概要
4/12 (金)	常識の非常識 日本語とマヤ語	八杉佳穂 (民博教授)	古代マヤ文明時代から使われているマヤ語は日本語とまったく逆の鏡像のような言語です。鏡に写った日本語や日本文明を考えます。
5/10 (金)	さかさまからみる 観光	吉田ゆか子 (研究員)	現地の人々は、観光客との出会いをどのように受け止めているのか、インドネシア・バリ島の事例をもとに考えます。
6/14 (金)	なぜ日本人は中国 人とトラブルのか	河合洋尚 (研究員)	日本と中国はなぜ文化摩擦を起こすのでしょうか。一般的に考えられがちな中国イメージを人類学の眼から考え直します。
7/12 (金)	伝統芸能のここが 面白い！	呉屋淳子 (研究員)	伝統芸能は「昔のもの」、「難しいもの」というイメージが強く、よく分からないという声も多く聞きます。そこで沖縄芸能を通して伝統芸能の面白みに迫ります。
9/13 (金)	人類学で「いじめ」 を読む	加賀谷真梨 (研究員)	学校という閉鎖的空間で生じる特殊な心理、社会的メカニズムで解かれてきた「いじめ」。子どもたちが発しているメッセージを読み取り、新たな視点を探ります。

(いずれも午後 6 時半から 8 時半)。

会場は、キャンパスポート大阪 (大阪駅前第 2 ビル 4 階。大阪市北区梅田 1-2-2-400)

参加者 20 人 (先着順、第 1 回のみ 40 人)

参加費 1000 円 (資料代)

問い合わせ、申し込みは大阪自由大学事務局へ